

科目名	文章の表現	分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Composition	1	後期	2
ふりがな 担当者名	橋元志保	テーマ	論理的な思考力、表現力を身につけよう	
<p><b>【授業概要】</b>            良い文章とは、どのような文章なのでしょう。それは、主題や文章力、構成に優れているだけではなく、自分自身の価値観、心のありようが表れている文章だと思います。「文は人なり」という有名な言葉がありますが、文章を書くことは、自分自身をみつめ直すことに繋がるのです。            本講義では、自分自身の考えを明確に伝え、また論理的構造を持った文章が書けるようになるために、様々なことを学んでいきます。具体的には、テーマや構成、題材と表現、推敲の大切さ等、文章上達のためのポイントをわかりやすくお話しします。しかし、何より大切なのは、まず書いてみることです。一つずつ、課題を仕上げていくうちに、少しずつ向上していく自分に気づくでしょう。</p>				
授業計画				
第1回 「読むこと」と「書くこと」				
第2回 論説文の構造				
第3回 論説文の解釈				
第4回 論説文を書いてみよう				
第5回 論説文を書いてみよう				
第6回 論説文を書いてみよう				
第7回 批評と推敲				
第8回 論説文を読む				
第9回 論説文を読む				
第10回 テーマと表現 - 文章の切り口とは -				
第11回 テーマと感受性 - 感受性を深める -				
第12回 テーマと具体性 - 文章の臨場感 -				
第13回 三段構成法と四段構成法				
第14回 論文・レポートを書くために				
第15回 論文・レポートを書くために				
第16回 後期試験				
テキスト	辰濃和男『文章のみがき方』(岩波新書 2007年)			
参考文献	授業の際に、紹介する。			
単位認定の方法	出席や授業態度、課題、試験の総合評価とする。			
内容的に関連する科目	文章の読み方、小論文の書き方、文章の表現			

科目名	小論文の書き方	分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Critical Thinking and Writing	1	後期	2
ふりがな 担当者名	橋元志保	テーマ	論理的文章の書き方の基本を身につけよう。	
<p><b>【授業概要】</b>  本講義では、小論文やレポートの基本的な書き方を学びます。大学生活において、論理的な文章を「書く」という行為は欠かせないものです。定期試験における文章問題やレポート、そして卒業論文など、「テーマを決め、それに基づいて資料を集め、構成を考え、まとめていく」という作業を行うことは、非常に多いのです。  まずはじめに、テーマの設定や資料の検索の仕方、構成の重要性、引用・要約の方法などを学んでいきます。また、自分が書いた文章を、表記や文体、構成などの観点から、より良い文章に推敲していくスキルも身につけていきましょう。</p>				
授業計画				
第1回	学術論文と試験論文とは			
第2回	テーマの設定と資料の検索			
第3回	テーマと構成			
第4回	論理的文章とは			
第5回	構想と構成・文体と表現			
第6回	引用と要約			
第7回	小論文を書いてみよう			
第8回	小論文を書いてみよう			
第9回	小論文を書いてみよう			
第10回	推敲の方法			
第11回	論説文・レポートを書くために			
第12回	論説文・レポートを書くために			
第13回	様々な試験論文			
第14回	論文を読む - 文学・歴史・文化人類学から -			
第15回	論文を読む 文学・歴史・文化人類学から			
第16回	後期試験			
テキスト	資料を配付する。			
参考文献	授業の際に、紹介する。			
単位認定の方法	出席や授業態度、課題、試験の総合評価とする。			
内容的に関連する科目	文章の読み方、文章の表現 ・ 、教養ゼミナール			

科目名	地理学の基礎	分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Geography	1	後期	2
ふりがな 担当者名	うえむら やすゆき 上村 康之	テーマ	系統地理学入門	
<b>【授業概要】</b> 大学で初めて「地理学」を学ぶことになる学生、あるいは高等学校で地理を受講しなかった学生に対し、まず中学校、高等学校以前の授業で学んだ地理と「地理学」は異なるということに気づき、理解してほしい。本授業では、現代の地理学が扱っている最新のテーマを題材に地理学という学問の広がりについて解説する。 地理学の基礎 ・ を通年で受講することが望ましい。 テキストは必ず購入し、通読し予習すること。 なお、受講者が少人数の場合は、講義中心でなくテキストの輪読、発表を取り入れた授業を行う。				
授業計画				
第1回 地理学への招待 1				
第2回 地理学への招待 2				
第3回 人口の地理学 1				
第4回 人口の地理学 2				
第5回 日本の産業 1				
第6回 日本の産業 2				
第7回 景観とフィールドワーク				
第8回 都市とは何か				
第9回 都市と農村				
第10回 人・モノの流れ 1 (中心地と小売業)				
第11回 人・モノの流れ 2 (中心地と小売業)				
第12回 地図学 1 (地図の歴史・基本)				
第13回 地図学 2 (地形図の読み方)				
第14回 観光と地域社会 1 (五箇山・白川郷)				
第15回 観光と地域社会 2 (白神山地と屋久島)				
第16回 後期試験				
テキスト	高橋伸夫編『現代地理学入門』古今書院、2005年			
参考文献	帝国書院編集部編『新詳高等地図 最新版』帝国書院、2008年			
単位認定の方法	定期試験とレポートの内容により、総合的に評価する。			
内容的に関連する科目	産業と地域 ・ 、人間と地域、自然と地域、地誌			

科目名	情報と消費の社会	分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Society of Consumption and Information	2	後期	2
ふりがな 担当者名	しょうじ まこと 庄司 信	テーマ	情報化・消費化社会の現在と未来	
<b>【授業概要】</b>				
現代社会についての一つの全体像を提示するものとして、見田宗介『現代社会の理論』（岩波新書）を読む。20世紀半ばにまずアメリカで成立したとされる「現代社会」の基本的特徴（情報化・消費化）と問題点（環境・資源問題と南北問題）さらに問題解決の基本的方向性に関する見田さんの提案を学ぶ。なお、この講義は少し難しい本を皆さん自身が読めるようになることも意図しているので、文章読解的な解説もするが、半期で1冊全体を丁寧に読むのは無理なので、第1、4章を中心に読む。なお、テキストは必ず用意すること（古本でもよい）。				
授業計画				
第1回 『現代社会の理論』の「はじめに」				
第2回 第1章の1				
第3回 第1章の1のつづきと2				
第4回 第1章の2のつづきと3				
第5回 第1章の4				
第6回 第1章の5、6				
第7回 第2章概説				
第8回 第3章概説				
第9回 第4章の序と1				
第10回 第4章の1のつづきと2				
第11回 第4章の2のつづきと3				
第12回 第4章の4				
第13回 第4章の5				
第14回 第4章の6				
第15回 第4章の7と結				
テキスト	見田宗介『現代社会の理論』（岩波新書）1996年			
参考文献				
単位認定の方法	出席とレポートまたは試験の成績			
内容的に関連する科目	現代社会と経済、資本主義のしくみ、日本経済の動きとしくみ、日本経済の歩み			

科目名	哲学のあしあと	分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	1 Philosophy	1	後期	2
ふりがな 担当者名	なかはし まこと 中橋 誠	テーマ	現代思想	
【授業概要】 前期の「哲学のみちしるべ」をうけて、現代思想を扱います。現代思想は、従来の哲学的思考を否定しようと試みているようです。従来の哲学的思考の何が問題なのでしょうか。問題だとして、では、どのようにそれを乗り越えようとしているのでしょうか。そして、その乗り越えは今のわたしたちの思考をどのように規定しているのでしょうか。それをうけて、従来の哲学的思考では扱えなかった問題を扱っていきます。				
授業計画				
第1回 インTRODクシヨN：現代思想とは何か。				
第2回 近代の哲学				
第3回 近代哲学から現代思想へ（1）				
第4回 近代哲学から現代思想へ（2）				
第5回 近代哲学から現代思想へ（3）				
第6回 現代思想の準備（1）				
第7回 現代思想の準備（2）				
第8回 人間の基礎構造（1）				
第9回 人間の基礎構造（2）				
第10回 人間の基礎構造（3）				
第11回 身体の問題（1）				
第12回 身体の問題（2）				
第13回 言語の問題（1）				
第14回 言語の問題（2）				
第15回 まとめ				
第16回 テスト				
テキスト	なし			
参考文献	適宜指示します。			
単位認定の方法	平常点と期末試験			
内容的に関連する科目	哲学のみちしるべ、倫理学、倫理学			

科目名	日本の歴史	分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Japanese History	1	後期	2
ふりがな 担当者名	わたなべ じゅん	テーマ	日本近世・近現代史の把握	
<p><b>【授業概要】</b>  政治・経済・社会・文化など、あらゆる観点から日本史を考察する。日本に対する理解を深めるとともに、歴史の流れを把握することを目標としたい。  また、東アジア情勢や東北地方の動向などにも目配りしながら多角的に日本史を考察する。後期は近世・近現代史を扱う予定である。</p>				
授業計画 後期				
第1回 戦国期の社会				
第2回 織豊政権				
第3回 幕藩体制の成立				
第4回 幕藩体制の展開				
第5回 幕藩体制の動揺				
第6回 開国と幕藩体制の崩壊				
第7回 明治政府の成立				
第8回 明治政府の成立				
第9回 自由民権運動と大日本帝国憲法の制定				
第10回 政党政治と社会運動				
第11回 第一次世界大戦と恐慌				
第12回 満洲事変から日中戦争へ				
第13回 アジア太平洋戦争				
第14回 敗戦と戦後改革				
第15回 敗戦と戦後改革				
第16回 試験				
テキスト	特に使用しない。レジュメを配布する。			
参考文献	佐々木潤之介ほか編『概論日本歴史』（吉川弘文館、2000年）など。講義のなかで随時、紹介する。			
単位認定の方法	総合評価とする。評価ポイントは重視する方から 期末試験結果、課題、出席、の順である。 私語厳禁			
内容的に関連する科目	日本の歴史			

科目名	自然の科学	分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Natural Sciences I	1	後期	2
ふりがな 担当者名	むらなか たかし 村中 孝司	テーマ	日本の自然の豊かさと自然科学的な思考	
【授業概要】 未だ十分には解き明かされることのないさまざまな自然現象。科学者は現象に関する知識を蓄積し、分析することを通して仮説の検証を試みてきた。「自然科学」はいったいどのようにして生み出され、どのような方法で発展してきたのか。また、人間社会において自然科学はどのような必要性に迫られてきたのだろうか。講義では、(1) 宇宙の中の地球、大地と海洋などの「地球」について考えるとともに、日本の自然の美しさ、豊かさなどの特色を紹介する。また、(2) 自然科学的な研究方法や考え方、自然科学の歴史について考え、それらに基づいて「自然科学」の人間社会における役割や科学的手法の重要性について考察する。				
授業計画				
第1回	ガイダンス			
第2回	宇宙から見た地球：大気，水，自然界のさまざまな物質，生命			
第3回	陸地と海洋			
第4回	日本列島の自然の豊かさ(1)： 地理，地形と気候，地域			
第5回	日本列島の自然の豊かさ(2)： 火山・地震，自然災害と恵み			
第6回	日本列島の自然の豊かさ(3)： 森林			
第7回	日本列島の自然の豊かさ(4)： 川と文化			
第8回	自然科学的思考と研究の方法(1)： 仮説から検証へ			
第9回	自然科学的思考と研究の方法(2)： さまざまな自然現象の把握と原因の追及			
第10回	自然科学的思考と研究の方法(3)： 自然現象の将来予測			
第11回	自然科学的思考と研究の方法(4)： 自然科学史，本草・博物学から自然科学へ			
第12回	自然に対する思想(1)： アフリカ，ヨーロッパ，アジアの人々の自然に対する見方・考え方			
第13回	自然に対する思想(2)： 日本の照葉樹林文化と自然観			
第14回	自然に対する思想(3)： 自然保護思想と活動			
第15回	自然科学と人間社会			
第16回	試験			
テキスト	配布資料			
参考文献	中尾佐助『栽培植物と農耕の起源』，佐々木高明『照葉樹林文化とは何か』ほか			
単位認定の方法	試験，レポート・ミニテスト(随時実施する)			
内容的に関連する科目	自然の科学 ，数学のはなし ・ ，環境のはなし ・ ，地理学の基礎 ・			

科目名	倫理学	分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Ethics	2	後期	2
ふりがな 担当者名	なかはし まこと 中橋 誠	テーマ	環境倫理の諸問題	
<b>【授業概要】</b> 前期の授業をうけて、現代になって大きな問題となってきた環境倫理の諸問題を扱います。環境に対する倫理的配慮とはどのようなことを意味するのでしょうか。環境問題を受けて、わたしたちの倫理的思惟はどのように変化すべきなのでしょう。環境倫理はまだ生成の途上にある倫理です。大いに議論していきましょう。				
授業計画				
第1回 インTRODクシヨN：従来の倫理学説の問題点				
第2回 従来の倫理学説の限界（1）				
第3回 従来の倫理学説の限界（2）				
第4回 自然の生存権の問題（1）				
第5回 自然の生存権の問題（2）				
第6回 自然の生存権の問題（3）				
第7回 自然の生存権の問題（4）				
第8回 世代間倫理の問題（1）				
第9回 世代間倫理の問題（2）				
第10回 世代間倫理の問題（3）				
第11回 地球全体主義の問題（1）				
第12回 地球全体主義の問題（2）				
第13回 地球全体主義の問題（3）				
第14回 人間と環境（1）				
第15回 人間と環境（2）				
第16回 テスト				
テキスト	なし			
参考文献	適宜指示します。			
単位認定の方法	平常点と期末試験			
内容的に関連する科目	倫理学、哲学のみちしるべ、哲学のあしあと			

科目名	環境のはなし	分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Ecology and Environmental Sciences II	2	後期	2
ふりがな 担当者名	むらなか たかし 村中 孝司	テーマ	生態系・生物多様性の損失と食糧・農業問題	
<b>【授業概要】</b>				
豊かな自然環境は私たちにさまざまな物質，機能，文化などの恵みをはぐくんでくれる．そのような恵み，すなわち「生態系サービス」は，地域の生物多様性の価値を見いだすものである．しかし，近現代的な開発や土地利用形態の変化，外来生物の侵入と蔓延による自然生態系の損失は人間と自然との結びつきをいっそう希薄にするばかりか，人工物に囲まれた現代人はその危機感を十分に認識しているとはいえない．講義では，(1) 不可逆的な変化としての生態系・生物多様性の損失の実態，(2) 自然環境の保護・保全とそれらに係る問題，(3) 世界人口の増加と食糧・農業問題について紹介し，持続的利用とその方法について考察する。				
授業計画				
第1回 ガイダンス				
第2回 自然環境と生態系．自然からの恵み「生態系サービス」とは				
第3回 生態系・生物多様性の損失 (1)： 「種が絶滅する」ことの意味				
第4回 生態系・生物多様性の損失 (2)： 地球温暖化，および開発，乱獲・過剰採集による問題				
第5回 生態系・生物多様性の損失 (3)： 二次的自然の管理放棄による問題				
第6回 生態系・生物多様性の損失 (4)： 化学物質と外来生物の侵入による問題				
第7回 自然環境の保護・保全に係る取り組み (1)： 自然公園法，種の保存法				
第8回 自然環境の保護・保全に係る取り組み (2)： 景観の修復（修景）と国土の緑化，環境教育				
第9回 自然環境の保護・保全に係る取り組み (3)： 自然環境・生態系の保護と保全				
第10回 自然環境の保護・保全に係る取り組み (4)： 自然環境・生態系の再生と復元				
第11回 食糧と農業問題 (1)： 世界人口の急激な増加と食糧不足				
第12回 食糧と農業問題 (2)： 食糧生産に関する問題と自給率．遺伝子組み換え作物				
第13回 食糧と農業問題 (3)： 畜産に係る問題：狂牛病と鳥インフルエンザ				
第14回 花粉症：予測されなかった環境問題				
第15回 宇宙船地球号： 地球外（惑星）に移住することは可能か				
第16回 試験				
テキスト	配付資料			
参考文献	日高敏隆『生物多様性はなぜ大切か？』，湯本貴和『食卓から地球環境が見える』 石川徹也『日本の自然保護』，加藤則芳『日本の国立公園』ほか			
単位認定の方法	試験，レポート・ミニテスト（随時実施）			
内容的に関連する科目	環境のはなし ，自然の科学 ，数学のはなし ，農業と経済			

科目名	生活と政治 II	分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Life and Politics II	2	後期	2
ふりがな 担当者名	阿曾村 邦昭	テーマ	政治を見る眼を養う	
<b>【授業概要】</b> 政治学への入門。「生活と政治 I」で得た知見を基に政治の具体的な過程、動きを更に学ぶ。政治を考えるうえでの基礎知識が身につくようにするとともに、各種公務員試験対策にも焼くに経つように工夫する。適宜、映像を活用。				
授業計画				
第1回 近現代における政治思想と政治理論				
第2回 政党				
第3回 日本の政党とその特徴				
第4回 圧力団体				
第5回 選挙 I				
第6回 選挙 II				
第7回 マスメディアと世論				
第8回 世論に訴える手段としての公開討論				
第9回 政治の仕組みと法 (1) 立法と国会				
第10回 (2) 行政と内閣				
第11回 (3) 司法と裁判所				
第12回 (4) 国、自治体の行政と法				
第13回 社会階層と政治				
第14回 日本の官僚制				
第15回 戦後日本の政治過程				
第16回 試験				
テキスト	中村 昭雄、「基礎から分かる政治学」、声書房			
参考文献	追って指示する			
単位認定の方法	出席と試験			
内容的に関連する科目	過去に学ぶ政治の知恵、国際社会の歴史 - ヨーロッパ近代史			

科目名	過去から学ぶ政治の知恵	分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Political History	2	後期	2
ふりがな 担当者名	阿曾村 邦昭	テーマ	歴史との対話	
<b>【授業概要】</b> 奈良時代以降のわが国の政治外交の特徴を主に対外戦争体験を通じて検証するとともに、近現代世界における日本の政治的歩みを概観。				
授業計画				
第1回 古代アジア世界の崩壊と日本（律令体制の崩壊と武士の勃興）				
第2回 蒙古の対外膨張と周辺国家の対応（日本、朝鮮、ベトナムの比較）				
第3回 蒙古の対外膨張と周辺国家の対応（日本、朝鮮、ベトナムの比較）				
第4回 蒙古の対外膨張と周辺国家の対応（日本、朝鮮、ベトナムの比較）（映像）				
第5回 秀吉の朝鮮出兵とその帰結（政治、外交、軍事）				
第6回 悲劇の武将、外交官 - 小西行長の生涯 -				
第7回 清国精力拡大下における日本の鎖国（ベトナムのホイアン - 日本人町の盛衰の一例）				
第8回 江戸時代の日朝交流関係（対馬 宗氏の役割、朝鮮通信使）				
第9回 江戸時代の日朝交流関係（対馬 宗氏の役割、朝鮮通信使）（映像）				
第10回 日本の開国（強いられた開国、アヘン戦争とその影響）				
第11回 日本の開国（強いられた開国、アヘン戦争とその影響）（映像 アヘン戦争）				
第12回 第一次世界大戦序幕としての日露戦争				
第13回 ヴェルサイユ講和条約と日本の立場（人種差別撤廃への努力と白人支配の継続）				
第14回 大東亜戦争の原因（東京裁判史観とその批判）				
第15回 戦後日本の政治過程				
第16回 試験				
テキスト	追って指示する			
参考文献				
単位認定の方法	出席と試験			
内容的に関連する科目				

科目名	入門経済学	分類	経済学部専門・必修	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Basic Economics	1	後期	2
ふりがな 担当者名	塚谷 文武	テーマ	経済学の基礎を学ぶ	
<b>【授業概要】</b>				
前期科目の現代社会と経済（必修）の講義を受けた学生を対象に、経済（学）の必須の基本用語を確実に身につけさせることを目的とした講義である。また、2年次にマクロ経済学・ミクロ経済を学習する学生のため、入門から本格的な経済学の学習への橋渡しも目的としている。このため、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的理論の中から、エッセンス部分を取り出し、できるだけ平易にかみ砕いて丁寧に説明する。				
授業計画				
第1回 イン트로ダクション				
第2回 ミクロ経済学の基礎（1）消費 - 何をどれだけ消費するか - 内容：予算制約線				
第3回 ミクロ経済学の基礎（2）消費 - 何をどれだけ消費するか - 内容：無差別曲線				
第4回 ミクロ経済学の基礎（3）消費 - 何をどれだけ消費するか - 内容：消費者の需要曲線				
第5回 ミクロ経済学の基礎（4）生産 - 企業を経営する - 内容：等産出量曲線				
第6回 ミクロ経済学の基礎（5）生産 - 企業を経営する - 内容：限界生産物、総費用曲線				
第7回 ミクロ経済学の基礎（6）生産 - 企業を経営する - 内容：企業の供給曲線				
第8回 ミクロ経済学の基礎（7）市場取引 - 買う人と売る人の出会い - 内容：市場の需要曲線				
第9回 ミクロ経済学の基礎（8）市場取引 - 買う人と売る人の出会い - 内容：市場の供給曲線				
第10回 ミクロ経済学の基礎（9）市場取引 - 買う人と売る人の出会い - 内容：市場均衡				
第11回 ミクロ経済学の基礎（10）市場取引 - 買う人と売る人の出会い - 内容：需給曲線のシフト				
第12回 マクロ経済学の基礎（1）景気 - なぜ不況は起こるのか - 内容：国内総生産（GDP）				
第13回 マクロ経済学の基礎（2）景気 - なぜ不況は起こるのか - 内容：GDP と付加価値				
第14回 マクロ経済学の基礎（3）景気 - なぜ不況は起こるのか - 内容：三面等価の法則				
第15回 まとめ				
第16回 期末試験				
テキスト	荒井一博・北村宏隆・信田強『はじめて学ぶ 経済学』中央経済社、2003年。			
参考文献	講義中に適宜お知らせします。			
単位認定の方法	期末試験、出席、小テストなどから総合的に評価する。			
内容的に関連する科目	現代社会と経済（前期、必修）			

科目名	ミクロ経済学	分類	経済学部専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Microeconomics	2	後期	2
ふりがな 担当者名	北野 友士 <small>きたの ゆうじ</small>	テーマ	市場メカニズム、独占、市場の失敗	
【授業概要】 私たちの周りには生活に欠かせない商品があふれています。これらの商品には値段がついています。この講義では、商品の値段（価格）がどのように決定されるかを学びます。講義の前半では、経済学の基本である市場で決定される価格について学び、後半では市場に任せては適正な価格とならない場合（独占の問題や市場の失敗）について学びます。				
授業計画				
第1回 インTRODakション				
第2回 ミクロ経済学とは				
第3回 需要と供給（1）需要・供給分析				
第4回 需要と供給（2）需要・供給分析の応用				
第5回 需要曲線と消費者行動（1）需要曲線とは				
第6回 需要曲線と消費者行動（2）需要曲線と消費者余剰				
第7回 費用の構造と供給行動（1）供給曲線とは				
第8回 費用の構造と供給行動（2）利潤最大化と供給行動				
第9回 市場取引と資源配分				
第10回 ゲームの理論入門				
第11回 独占と競争の理論（1）独占の理論				
第12回 独占と競争の理論（2）完全競争と独占的競争				
第13回 市場の失敗（1）外部効果				
第14回 市場の失敗（2）公共財				
第15回 ミクロ経済学のまとめ				
第16回 期末試験				
テキスト	伊藤元重『入門 経済学<第3版>』日本評論社			
参考文献	講義中に適宜紹介します。			
単位認定の方法	出席、小テスト（3～4回実施予定）および期末試験により評価します。なお、授業中の私語は減点対象となります。			
内容的に関連する科目	入門経済学、国際経済学、公務員のミクロ経済学			

科目名	財政と国民生活	分類	経済学部専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Public Finance	2	後期	2
ふりがな 担当者名	塚谷 文武	テーマ	少子高齢化社会における財政	
<b>【授業概要】</b>				
<p>「財政」とは、国や地方自治体など公共部門の経済活動である。われわれ国民の生活は、その存在をぬきにして成り立つことができないほど、密接な関わりをもっている。人口減少社会が到来し、今後も少子・高齢化が進行する現代社会において、「財政」に関する諸問題を明らかにし、その対策について考えたい。</p>				
授業計画				
第1回 人口高齢化と財政(1) 内容：人口高齢化の財政への影響				
第2回 人口高齢化と財政(2) 内容：年金、医療、介護財政の諸問題				
第3回 人口高齢化と財政(3) 内容：年金、医療、介護財政の諸問題				
第4回 人口高齢化と財政(4) 内容：年金、医療、介護財政の諸問題				
第5回 公共投資と財政(1) 内容：現代経済と公共投資				
第6回 公共投資と財政(2) 内容：社会資本としての公共投資				
第7回 環境と財政(1) 内容：環境問題と公共政策				
第8回 環境と財政(2) 内容：環境保全と財政システム				
第9回 公債と公債政策(1) 内容：日本の国債制度				
第10回 公債と公債政策(2) 内容：国債管理政策の再構築				
第11回 国と地方の財政関係(1) 内容：政府間財政関係と分権化の潮流				
第12回 国と地方の財政関係(2) 内容：政府間財政関係と分権化の潮流				
第13回 地方財政危機と財政改革(1) 内容：財政調整制度をめぐる諸問題				
第14回 地方財政危機と財政改革(2) 内容：行政の広域化と市町村合併				
第15回 総括と展望				
第16回 期末試験				
テキスト	重森暁・鶴田廣巳・植田和弘『Basic 現代財政学〔新版〕』有斐閣、2003年。			
参考文献	講義中に適宜お知らせします。			
単位認定の方法	期末試験(70%)、出席点(30%)を含めて成績評価を行う。			
内容的に関連する科目	地方の財政(前期)、財政のしくみ(前期)			

科目名	現代ファイナンス論	分類	経済学部専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Finance	2	後期	2
ふりがな 担当者名	きたの ゆうじ 北野 友士	テーマ	金融政策、金融システム、金融制度改革	
【授業概要】 現在、サブプライムローン問題に始まった金融危機の影響から世界的な不況に陥っています。金融危機ひいては不況を脱するため、ゼロ金利政策や量的緩和政策に踏み切る中央銀行も現われています。こうした中央銀行の行動を理解できるようにするため、この講義では景気と金融（政策）との関係、金融システム、金融制度改革について学びます。				
授業計画				
第1回 イン트로ダクション				
第2回 現代経済と金融				
第3回 景気変動と金融（1）投資と金利との関係				
第4回 景気変動と金融（2）金利と景気との関係				
第5回 金融政策の目的と手段				
第6回 金融政策と金利（1）金融政策のメカニズム				
第7回 金融政策と金利（2）金利の変化				
第8回 日本の金融制度改革（1）信用秩序維持政策の変化				
第9回 日本の金融制度改革（2）金融自由化				
第10回 日本の金融制度改革（3）金融ビッグバン				
第11回 デフレ不況とゼロ金利政策				
第12回 日銀の量的緩和政策				
第13回 サブプライムローン問題と金融政策				
第14回 金融危機下の金融政策				
第15回 現代ファイナンス論 のまとめ				
第16回 期末試験				
テキスト	特になし。			
参考文献	講義中に適宜紹介します。			
単位認定の方法	出席、小テスト（3～4回実施予定）、および期末試験により評価します。なお、授業中の私語は減点対象となります。			
内容的に関連する科目	現代ファイナンス論、およびマクロ経済学を履修済みであることが望ましい。			

科目名	資本主義経済のしくみ	分類	経済学部専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Capitalism Today	2	後期	2
ふりがな 担当者名	嶋田 耕也	テーマ	社会経済学の展開	
<b>【授業概要】</b> 基礎的な経済概念の学習から、より現実的な経済的問題へと進むことになる。経済を世界的観点からながめることが重要な視点となる。				
授業計画				
第1回 はじめに、 の復習と の概観				
第2回 再生産と変動				
第3回 再生産と変動				
第4回 産業連関表				
第5回 産業連関表				
第6回 産業連関表				
第7回 自然のなかの社会と経済				
第8回 自然のなかの社会と経済				
第9回 日本と東アジアの社会経済				
第10回 日本と東アジアの社会経済				
第11回 経済開発と人間開発				
第12回 経済システムの比較と移行経済				
第13回 経済システムの比較と移行経済				
第14回 グローバリゼーション				
第15回 グローバリゼーション				
第16回 まとめとテスト				
テキスト	角田修一編『社会経済学入門』			
参考文献	授業の中で指示します			
単位認定の方法	試験、レポート、出席の総合評価			
内容的に関連する科目				

科目名	国際経済学	分類	経済学部専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	International Economics	2	後期	2
ふりがな 担当者名	まえだ 前田 直哉	テーマ	国際収支と為替相場	
<b>【授業概要】</b> 1990年代に入って経済のグローバル化が急速に進んだ。この現象を理解するために、国際経済学の理論のみならず、その歴史・制度についても学習することが必要であるとする。本講義の目的は国際収支と為替相場の基礎理論をマスターすることにある。				
授業計画				
第1回 ガイダンス				
第2回 国際収支とは				
第3回 国際収支表の見方				
第4回 国際貸借				
第5回 為替相場とは				
第6回 国際収支と為替相場(1)：弾力性アプローチとJカーブ効果				
第7回 国際収支と為替相場(2)：アブソープション・アプローチとマネタリー・アプローチ				
第8回 国際収支と為替相場(3)：ISバランス・アプローチ				
第9回 国際収支危機(1)：経常収支危機				
第10回 国際収支危機(2)：自己実現的投機				
第11回 国際収支危機(3)：資本収支危機				
第12回 ドル危機とアジア通貨危機				
第13回 IMFと世界銀行				
第14回 IMFと世界銀行の課題				
第15回 まとめ				
第16回 期末試験				
テキスト	上川孝夫・藤田誠一・向壽一編『国際金融論[第3版]』有斐閣			
参考文献	講義中に適宜紹介する。			
単位認定の方法	出席、試験、平常点			
内容的に関連する科目	マクロ経済学、ミクロ経済学、国際経済学			

科目名	日本経済の歩み	分類	経済学部専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Japanese Economic History	2	後期	2
ふりがな 担当者名	すずき たつろう 鈴木 達郎	テーマ	明治維新时期と産業革命期の日本経済	
【授業概要】 本講義が対象とする時期は、1853年のペリー来航から1910年の韓国併合までの明治維新时期、産業革命期である。この時期に日本は近代化へのテイクオフに一応の成功を収めた。ただしその過程は、手放して賞賛されることでもなければ、一方的な非難があびせられることでもない。本講義の課題は、なぜ日本がテイクオフに成功することができたのかを経済史の視点から考察し、戦前の日本経済の歴史的特質を明らかにすることにある。				
授業計画				
第1回 開国の経済的影響				
第2回 開国の政治的影響 幕末の政治過程				
第3回 地租改正				
第4回 秩禄処分				
第5回 殖産興業				
第6回 明治国家の成立				
第7回 明治維新时期の日本経済の総括と確認テスト				
第8回 産業革命の開始				
第9回 重工業の展開				
第10回 鉱山業の展開 財閥論				
第11回 紡績業の展開				
第12回 製糸業の展開				
第13回 農業の展開 地主制論				
第14回 植民地				
第15回 産業革命期の日本経済の総括と確認テスト				
テキスト	テキストは使用しない。講義のなかで資料を配付する。			
参考文献	講義のなかで紹介する。			
単位認定の方法	出席および2回の確認テストによって総合的に判断する。			
内容的に関連する科目	日本経済の動きとしくみ、欧米の産業と交易の歴史			

科目名	欧米の産業と交易の歴史	分類	経済学部専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	European and American Economic History	2	後期	2
ふりがな 担当者名	しらかわ 欽哉 白川 欽哉	テーマ	20世紀の欧米経済	
【授業概要】 本講義では、20世紀の欧米経済のダイナミックな変化の原因とその影響を分析・検証していきます。20世紀は、大きく分けると巨大企業の誕生、二つの世界大戦、帝国主義、福祉国家の進展、社会主義の盛衰といった特徴を有しているといえるでしょう。それらを念頭に、講義は構成されています。講義中に聞き逃した点、理解しづらい点があった場合には申し出てください。				
授業計画				
第1回 20世紀の世界経済（概観）				
第2回 アメリカ合衆国の成立と農工間分業				
第3回 19世紀末大不況とヨーロッパ経済				
第4回 第二次産業革命とヨーロッパ				
第5回 第二次産業革命とアメリカ合衆国				
第6回 巨大企業の時代				
第7回 イギリスの地位低下とその背景				
第8回 植民地獲得をめぐる競争				
第9回 第一次世界大戦とロシア革命				
第10回 大戦間期の世界経済				
第11回 世界大恐慌と世界経済				
第12回 ナチスとニューディール（1）				
第13回 ナチスとニューディール（2）				
第14回 第二次世界大戦後の世界経済				
第15回 総まとめ				
第16回 試験				
テキスト	石坂昭雄・舟山榮一・宮野啓二・諸田實編著『西洋経済史』（有斐閣）			
参考文献	石坂昭雄・壽永欣三郎・山下幸夫・諸田實編著『商業史』（有斐閣）			
単位認定の方法	定期試験の点数と出席率の総合評価（出席3分の2以上の学生のみ評価します）			
内容的に関連する科目	欧米の産業と交易の歴史、日本経済の歩み &			

科目名	地域の経済政策	分類	経済学部専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記		3	後期	2
ふりがな 担当者名	のぐち ひでゆき 野口 秀行	テーマ	勝ち組と負け組地域経済の優勝劣敗	
【授業概要】 本講義では、なぜ過疎が進むのか？なぜ都市と地方との間に経済格差が生まれるのか？経済のグローバル化がなぜ地域経済を疲弊させているのか？これらの問題を解決していくためには、地域の経済政策は、どうあるべきなのかについて学ぶ。				
授業計画				
第1回 勝ち組の代表亀山モデル				
第2回 産業構造転換と地域経済（浜松に見る地域の産業政策）				
第3回 地域経済と産業インフラ整備（鉄道・港湾・空港・高速道路）				
第4回 地域経済と産業インフラ整備（高速インターネット・大学）				
第5回 地方自治体の産業政策の放棄				
第6回 産官連携とインキュベーション				
第7回 マイケル・ポーターの産業クラスター論				
第8回 90年代米国におけるクラスター形成				
第9回 わが国における地域クラスター形成				
第10回 インテリジェンスコスモスの挫折と東北の先端産業				
第11回 創造化時代・知識経済への転換（1）				
第12回 創造化時代・知識経済への転換（2）				
第13回 秋田の老舗企業と時代への対応は				
第14回 秋田のオンリーワン企業（世界的な高シェア企業群）				
第15回 創造化時代・知識経済への転換（3）				
テキスト	プリント配布			
参考文献	追って連絡します			
単位認定の方法	試験の成績ならびに出席状況により総合的に判断			
内容的に関連する科目	地域づくり論			

科目名	経済学の歴史	分類	経済学部専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	History of Economic Thought	2	後期	2
ふりがな 担当者名	嶋田 耕也	テーマ	経済学の展開	
<b>【授業概要】</b> 19世紀に経済学の古典学派が成立したとすれば、19世紀後半に出てくるのが限界革命を経た新古典派の成立です。そして20世紀になると新たにケインズ経済学が登場してきます。この流れを正確につかむことが現代の経済学理解に必須の条件となります。				
授業計画				
第1回 はじめに、 の復習と の概観				
第2回 19世紀後半から20世紀にかけて。限界革命				
第3回 限界革命と新古典派の時代				
第4回 20世紀経済の特徴。大量生産と大量消費の時代				
第5回 20世紀経済の特徴。大量生産と大量消費の時代				
第6回 失業と恐慌の時代				
第7回 ケインズ経済学の登場				
第8回 ケインズ経済学の登場				
第9回 ケインズ経済学の登場				
第10回 シュンペーターの経済理論				
第11回 20世紀日本の経済状況と経済学の受容				
第12回 20世紀日本の経済状況と経済学の受容				
第13回 第2次大戦後の経済学と展開				
第14回 第2次大戦後の経済学と展開				
第15回 第2次大戦後の経済学と展開				
第16回 まとめとテスト				
テキスト	板書をノートにとって下さい。それがテキストです。			
参考文献	授業中に指示します			
単位認定の方法	試験、レポート、出席の総合評価			
内容的に関連する科目				

科目名	地域づくり論	分類	経済学部専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記		2	後期	2
ふりがな 担当者名	のぐち ひでゆき 野口 秀行	テーマ	全国総合開発計画の歴史とその破綻	
【授業概要】 経済のグローバル化にともない地域経済は極度に疲弊し、次第に再生への反発力を失いつつあると見られる。加えて地方財政は事実上破綻の危機に瀕し、このような状況下で強行された平成の大合併は、その陰で多くのコミュニティを崩壊の瀬戸際に追い込んでいる。そうしたなかで、コミュニティを今一度再興するにはどうすればよいかを、英国や米国などを例に学ぶとともに、今後の地域づくりのあり方について検討を加えて行く。				
授業計画				
第1回 全国総合開発計画の歴史(1) 戦後復興				
第2回 全国総合開発計画の歴史(2) 均衡ある発展				
第3回 全国総合開発計画の歴史(3) 破綻				
第4回 わが国の欧米の地方自治制度(民主主義の成熟度)				
第5回 平成の大合併(市町村合併の愚昧)				
第6回 補完性の原理(EU憲章)				
第7回 英国におけるコミュニティ再生(チャリティ・地域ファンド)				
第8回 米国におけるコミュニティ再生(CRAと金融システム)				
第9回 わが国におけるコミュニティ再生				
第10回 地方制度調査会の提言(近隣自治区・近隣政府)				
第11回 英国のパリッシュ・米国のスペシャル・ディストリクト				
第12回 欧米から我々が学ぶべきこと				
第13回 コミュニティ再生に向けて(PPP)				
第14回 コミュニティ再生に向けて(コミュニティ・ビジネス・NPO)				
第15回 コミュニティ再生に向けて(コミュニティ・ファイナンス)				
テキスト	プリント配布			
参考文献	追って連絡します			
単位認定の方法	試験の成績ならびに出席状況により総合的に判断			
内容的に関連する科目	地方財政論			

科目名	公務員の数学	分類	経済学部専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Mathematics	2	後期	2
ふりがな 担当者名	<small>かねこ みつや</small> 金子 光	テーマ	平面図形と立体図形	
<p><b>【授業概要】</b>  公務員試験のなかでも国家 種レベルの教養試験対策、特に数的推理のなかの図形問題について取り上げることで論理的思考能力や数的処理能力の向上を目指す。  基礎部分の反復練習に重点を置くことを通じて、ミクロ経済学・マクロ経済学の理論と計算問題等の理解をも目指す。そのため、関連する他の科目・講義等と合わせて履修することが望ましい。  本講義の内容は公務員試験対策としてはもとより民間就職試験対策においても生かせるものとなっている。</p>				
授業計画				
第1回 三平方の定理				
第2回 平行線と比例、角の二等分線と比例				
第3回 n角形の内角、円周角、合同				
第4回 ベン図、ド・モルガンの定理				
第5回 相似形、中点連結定理				
第6回 中線定理、チェバの定理				
第7回 円と接線、方べきの定理				
第8回 求積、パップス・ギュルダンの定理				
第9回 内接円、外接円、ヘロンの公式				
第10回 正弦定理、余弦定理				
第11回 微分、積分				
第12回 正多面体、柱体の体積・表面積				
第13回 すい体の体積・表面積				
第14回 最短距離				
第15回 球の体積・表面積				
第16回 定期試験				
テキスト	特定の教科書は用いない。必要に応じてレジュメ等を配布する。			
参考文献	講義の際、適宜紹介する。			
単位認定の方法	出席状況と定期試験の結果を基に総合的に評価する。			
内容的に関連する科目	「公務員の数学」、「公務員のマクロ経済学」、「公務員のミクロ経済学」、「景気の見方」、「経済の統計」(後期)			

科目名	年金・保険を考える	分類	経済学部専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Social Security	3	後期	2
ふりがな 担当者名	藤本 剛	テーマ	健やかで豊かな暮らしのために	
【授業概要】				
20歳になると学生であっても、国民年金の保険料を納める義務が生じます。特例制度の適用申請を行って、とりあえずは納付を先延ばしした人もいるでしょう。老後や障害に備えた保障の準備は基本的に全国民に求められています。病気やケガに対する備えも同様です。社会保険のシステムを用いた社会保障制度は国民の健やかで豊かな生活の実現を目指しています。制度はかなり複雑で、時代に応じて変化も大きいですが、現状はどうか。将来はどうか。国民の年金不信や医療費の負担増など、様々な課題があるなかで、私たちの将来の方向を共に考えていく科目です。				
授業計画				
第1回 社会保障とは何か・その歴史と背景				
第2回 社会保障の体系・社会保険について				
第3回 公的年金制度（制度と内容1）				
第4回 公的年金制度（制度と内容2・背景）				
第5回 公的年金制度（現状と課題）				
第6回 企業年金（制度と内容）				
第7回 企業年金（現状と課題）				
第8回 公的扶助（意義・原理・原則）				
第9回 公的扶助（現状と課題）				
第10回 公的医療保険（制度の概要）				
第11回 公的医療保険（健康保険）				
第12回 公的医療保険（国民健康保険・老人保健）				
第13回 公的医療保険（薬事）				
第14回 公的介護保険（制度の概要）				
第15回 公的介護保険（現状と課題）				
第16回 まとめとテスト				
テキスト	『公務員Vテキストシリーズ 社会政策』TAC出版			
参考文献	『厚生労働白書』各年版			
単位認定の方法	出席率、試験、レポート、メッセージカードの総合評価			
内容的に関連する科目	生活と社会福祉、労働について考える			

科目名	東アジア経済の話	分類	経済学部専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Asian Economy	3	後期	2
ふりがな 担当者名	まえだ 直哉	テーマ	東アジア経済の発展と展開	
【授業概要】 東アジア地域に位置する発展途上国はここ数十年目覚ましい経済成長を遂げ、世界の注目を集めてきた。本講義の目的は東アジア諸国の経済発展のプロセスを振り返り、経済学的に説明することにある。				
授業計画				
第1回 ガイダンス				
第2回 国際経済学から見る東アジア経済				
第3回 東アジア経済の概観				
第4回 アジア NIES				
第5回 ASEAN				
第6回 「東アジアの奇跡」				
第7回 「東アジアの奇跡」の終焉				
第8回 アジア通貨・金融危機				
第9回 通貨・金融危機後の東アジア経済				
第10回 アジア経済の発展と日本				
第11回 円ドル相場とアジア経済の発展				
第12回 アジア地域協力・統合				
第13回 APEC と AFTA				
第14回 アジア通貨・金融協力				
第15回 まとめ				
第16回 定期試験				
テキスト	北原淳・西澤信善編著『アジア経済論』ミネルヴァ書房			
参考文献	講義中に適宜紹介する。			
単位認定の方法	出席、試験、平常点			
内容的に関連する科目	国際経済学 ・ 、国際金融のシステム			

科目名	公務員のミクロ経済学	分類	経済学部専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Microeconomics	3	後期	2
ふりがな 担当者名	かねこ みつや 金子 光	テーマ	ミクロ経済学	

【授業概要】

「ミクロ経済学」は「経済学的思考」の理解にとり大変重要な学問である。

この講義では、「ミクロ経済学」の「理論」を学んだ上で、「マクロ経済学」・「財政学」・「公共経済学」など関連する学問分野の内容をも考慮に入れ、「ミクロ経済学」の様々な「理論」を用いて現実の公共部門の「政策分析」・「制度分析」を試みる。

講義内容は、公務員試験対策としてはもとより民間就職試験対策としても生かせるものとなっている。

授業計画

第1回 消費者理論：効用、無差別曲線、限界代替率

第2回 効用最大化：予算制約線、最適消費決定

第3回 生産者理論：生産関数、総費用曲線と利潤最大化条件

第4回 余剰分析：消費者余剰・生産者余剰・死荷重・総余剰

第5回 課税の影響：従量税・従価税

第6回 一般均衡分析：パレート最適条件、エッジワースのボックス・ダイアグラム、厚生経済学の基本定理

第7回 不完全競争市場：独占・複占・寡占

第8回 独占：独占企業の利潤最大化

第9回 複占：クールノー均衡、ベルトラン均衡、シュタッケルベルク均衡

第10回 市場の失敗

第11回 外部性：ピグー的政策、コースの定理

第12回 費用逓減産業（自然独占）：平均費用価格形成原理、限界費用価格形成原理

第13回 公共財：公共財供給のパレート最適条件（サムエルソンの公式）、フリー・ライダー問題、リンダール均衡

第14回 情報の非対称性：道徳的危険（モラル・ハザード）、逆選択（アドバース・セレクション）

第15回 ゲーム理論：囚人のジレンマ、ナッシュ均衡、混合戦略、ミニマックス原理

第16回 定期試験

テキスト 特定の教科書は用いない。必要に応じてレジュメ等を配布する。

参考文献 講義の際、適宜紹介する。

単位認定の方法 出席状況と定期試験の結果を基に総合的に評価する。

内容的に関連する科目 「公務員のマクロ経済学」、「公務員の数学」、「公務員の数学」、「景気の見方」（前期）、「経済の統計」

科目名	入門ロジスティクス	分類	経済学部専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Introduction to Production Management	3	後期	2
ふりがな 担当者名	あへ ときお 阿部 時男	テーマ	最先端の生産管理技法について	
<b>【授業概要】</b>				
<p>生産管理を広義に定義するならば、“財貨の生産に関与する諸種の生産力の総合的調整によって企業全体としての生産力を最高度に発揮せしめる”（生産管理便覧、丸善）である。すなわち、物的ならびに人的生産力を合理的に組み合わせることによって経営目的達成のために諸活動を組織的・科学的に機能させ、高い生産能率をあげることである。そのためには、まず、設備・工具・動力の機械化そして管理面の情報化と人間工学的な合理化を図り、また、一方で労働力の能率的利用のための技能の養成と能力の開発を促進することである。</p> <p>現代の生産管理は、部材の調達から、生産、そして、流通・消費にいたる一連の流れ（ロジスティクス）の中で機能することが求められている。すなわち、生産現場の管理から、広くもの作りを流通の中の製造部門の観点（SCM）で見つめて行かなければならない。この科目で取り扱う内容は、前期のビデオ教材学習を踏まえて、現代企業（製造業の管理を中心に）を理解する上で欠かすことの出来ないジャスト・イン・タイム生産方式、SCM、そして、VMIなどについて学習する。</p>				
授業計画				
第1回 生産管理の仕組み				
第2回 在庫管理1（基礎理論）				
第3回 在庫管理2（システム化）				
第4回 在庫管理3（安全在庫、トータル在庫）				
第5回 トヨタ方式1（かんばん、自動化、段取り替えなど）				
第6回 トヨタ方式2（かんばん、自動化、段取り替えなど）				
第7回 トヨタ方式3（かんばん、自動化、段取り替えなど）				
第8回 MRPとトヨタ方式				
第9回 SCM入門1				
第10回 SCM入門2				
第11回 SCM入門3				
第12回 ERPと生産管理				
第13回 TQCからTQM				
第14回 ECR・QRと生産システム				
第15回 VMIと生産管理				
第16回 期末試験				
テキスト	田中一成著 「図解生産管理 基本の基本からSCM、ERPまで」日本実業出版社、プリント教材			
参考文献	『生産管理の基礎テキスト』、日本能率協会マネジメントセンター、『新IE入門シリーズ』、第1巻・11巻 平野裕之著 日刊工業新聞社			
単位認定の方法	出席、中間・期末試験、宿題、各25%、出席率63%以下は認定対象外			
内容的に関連する科目	経営管理、経営学			

科目名	会計学	分類	経済学部専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Accounting	2	後期	2
ふりがな 担当者名	えびかわ すみお 海老川 寿美夫	テーマ	21世紀日本の会計	
【授業概要】 この講義では、「会計ビッグ・ウェーブ」のインパクトと題して、広く会計と称する分野で課題となっている領域を解説して行くものです。すなわち、今、会計の世界で起こっているエポック・メイキングな分野を勉強するものです。この科目では、会計の姿形がまだ確立していないという意味もあり、必要な領域ではVTRを活用して理解を深めてもらいます。				
授業計画				
第1回 現在、会計の分野でのビッグ・ウェーブとは？				
第2回 公会計入門 - 政府・自治体の実態を明らかにする				
第3回 自治体会計の改革最前線（その1）				
第4回 秋田の財政状況 - 事例研究（その2）				
第5回 病院会計入門 - 病院経営に企業会計手法を導入する				
第6回 病院会計準則と病院会計基準				
第7回 経営を4つの視点で業績評価するバランスト・スコアカードとは？				
第8回 バランスト・スコアカードの事例紹介				
第9回 環境会計入門 - 今、なぜ環境会計なのか？				
第10回 環境会計とISO14000シリーズ				
第11回 公益法人の簿記と会計概説				
第12回 CRS（企業の社会的責任）会計とは？				
第13回 CRS会計とCSR報告書				
第14回 CSRとSRI（社会的責任投資）について				
第15回 会計の将来像について				
テキスト	『21世紀日本の会計』山本繁編著（税務経理協会）。			
参考文献	『会計の世界』松本公文編著（白桃書房）。			
単位認定の方法	出席が全授業（15回）の2/3以上あることと、試験で単位認定。			
内容的に関連する科目	経営学、経営管理、簿記科目、管理会計、経営分析、経営管理者のための会計。			

科目名	経営学	分類	専門必修(マネジメント学科)・専門選択(経済学科)	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Business Administration	1	半期	2
ふりがな 担当者名	やま だ ひろ みの 山 由 洋 邑	テーマ		
【授業概要】 本講義は、2年次以降の専門科目への準備として、経営学の4つの大きな領域(戦略論、マーケティング、組織論、会計)と、企業の国際化、情報管理、経営計画、目標管理、リスクマネジメント、企業の社会的責任について解説します。また、これからの経済・経営環境の変化を見据えて、何が問題となっているのか、それをどう明らかにして、解決していくか、という経営学の基本的な考え方を学びます。(受講者の理解度や要望によりシラバス変更の可能性あります。)				
授業計画				
第1回 会社の形態、所有と支配の分離				
第2回 経営史の世界				
第3回 経営組織				
第4回 経営戦略論				
第5回 国際経営				
第6回 人事労務管理/人的資源管理				
第7回 マーケティング				
第8回 財務管理				
第9回 情報管理				
第10回 経営計画				
第11回 経営コントロール(目標管理)				
第12回 財務報告				
第13回 企業監査				
第14回 リスクマネジメント				
第15回 企業の社会的責任				
第16回 予備日(期末試験)				
テキスト	山口大学経済学部経営学科編、『経営学をやさしく学ぶ』中央経済社、2005			
参考文献	講義中に適宜紹介します。			
単位認定の方法	出席回数・試験などから総合的に判断します。			
内容的に関連する科目	経営学関連科目			

科目名	MIS (経営の情報)	分類	経済学部専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Management Information System	2	後期	2
ふりがな 担当者名	阿部 時男	テーマ	経営情報システムと販売管理	
<p><b>【授業概要】</b>            経営活動におけるコンピュータ・データベースシステムの活用とその重要性を前期の授業で(経営の情報)実習を通して学んだ。そこで学んだ生きた知識をもとにMIS (経営の情報)では、販売管理業務をたたき台として経営情報システムにまつわる最新的话题(ビデオ教材を取り入れ)について実例を見ながら解り易く解説する。特に、データ通信(インターネット)の高度化と普及は、様々な経営活動に大きな変革をもたらし、また、今後もその変革の勢いは止まることがない。これからの社会に活躍する諸君に取って、最新のIT技術とデータベースを応用した経営情報システム(POS、CRM、SCM、ECR、VMIなど)を知ることは不可欠と言って良い。            この科目は、コンピュータに関する技能と知識が必須となっている今日の情報社会において諸君の血となり肉となるものと確信している。</p>				
授業計画				
第1回 販売の緒活動				
第2回 販売の緒活動(イントラネット)				
第3回 販売の緒活動(POS)				
第4回 販売の緒活動(POS)				
第5回 販売の緒活動(CRM)				
第6回 販売の緒活動(SCM)				
第7回 販売活動と情報システム(SCM)				
第8回 販売活動と情報システム(VMI)				
第9回 中間試験 販売活動とデータベースマーケティング				
第10回 販売活動の緒活動(ECR・QR)				
第11回 販売・流通システム				
第12回 販売・物流システム(在庫管理システム)				
第13回 販売・物流システム(輸送管理システム)				
第14回 生産・物流システム(ロジスティック)				
第15回 生産・物流システム(在庫管理システム)				
第16回 期末試験				
テキスト	『販売情報システム』石渡徳彌 日科技連			
参考文献	『情報システムの分析・設計』国友義久 日科技連			
単位認定の方法	出席、中間・期末試験、宿題 各25%。			
内容的に関連する科目	ビデオ教材の活用			

科目名	流通システム	分類	経済学部専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Distribution System	2	後期	2
ふりがな 担当者名	なかむら かずひこ 中村 和彦	テーマ	流通に関する基礎理解	
<p>【授業概要】</p> <p>流通は生産者と消費者を結びつなぐ重要な役割と機能をもち、我々の生活と深く関わっている。流通には商取引流通と物的流通の二大機能があり、流通活動に携わる製造業、卸売業、小売業、運輸業などが互いにつながりをもって流通経路を構築している。</p> <p>本講義では、流通の役割や仕組み、流通業の基礎知識から、業界史、流通企業の現状や課題など、流通システムだけをクローズアップするのではなく、事例を取り入れながら、幅広く流通全般をわかりやすく学習していく（流通システム論 と を続けて履修するのが望ましい）。</p>				
授業計画				
第1回	ガイダンス	前期の復習		
第2回	情報化と流通、流通の社会的重要性、消費価値観			
第3回	卸売業、チェーン・オペレーション			
第4回	フランチャイズ、コンビニエンス・ストア			
第5回	プライベート・ブランド			
第6回	ナショナル・ブランド			
第7回	チャンネル・パワー論			
第8回	医薬品、化粧品の流通システム			
第9回	業態別流通システム	ディスカウント・ストア		
第10回	業態別流通システム	食品スーパー		
第11回	業態別流通システム	アウトレット		
第12回	業態別流通システム	通販、専門店など		
第13回	流通業界の環境武装			
第14回	これからの流通マーケティング			
第15回	後期授業の総括			
第16回	期末試験			
テキスト	講義毎にレジユメ・資料を配布し、それをもとに講義を進める			
参考文献	コトラー & アームストロング『マーケティング原理』ダイヤモンド社			
単位認定の方法	平常点（50点）と期末試験（50点）の総合評価			
内容的に関連する科目	マーケティング・マネジメント、販売士講座、マーケティング、観光産業入門			

科目名	ビジネスの心理	分類	経済学部専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Business Psychology	3	後期	2
ふりがな 担当者名	伊藤 護朗	テーマ	組織における人間関係を考える	
【授業概要】 今ビジネスマンは、雇用形態の多様化・国際化・情報化により、様々な知識やスキルを身につけることが求められている。しかし、いくら知識やスキルを身につけても、同僚や取引先と良好な人間関係を築けなければ、それを活かすことはできない。 このことを踏まえて、本授業では職務の基本（マナーとルール）や職場のモラル、リーダーシップなど、組織運営における「人間関係の心理」を中心に講義する。				
授業計画				
第1回 「ビジネスの心理」とは				
第2回 ビジネスマンとしての自覚と意識（心構え）				
第3回 人間関係の心理（1） 人間（じんかん）距離 / ジレンマ / スキンシップ				
第4回 人間関係の心理（2） 青い鳥症候群 / 燃えつき症候群 / シンデレラコンプレックス				
第5回 信頼関係の心理（1） 言行一致 / 誠実 / 意識改革				
第6回 信頼関係の心理（2） 過分報酬 / 類似性の要因 / 慰労				
第7回 職場におけるリーダーシップ（1） 職場組織 / 管理職 / 一般職				
第8回 職場におけるリーダーシップ（2） P M理論 / P機能 / M機能				
第9回 職場におけるリーダーシップ（3） 因子分析 / 配慮 / 体制づくり				
第10回 職場におけるリーダーシップ（4） リーダーの特性 / 課題状況 / 自律と意欲				
第11回 リーダーになるための条件 先見性 / 幸運 / 外向性				
第12回 コミュニケーションとビジネス（1） 仕事志向 / プライベート志向 / 感情				
第13回 コミュニケーションとビジネス（2） 報告 / 連絡 / 相談				
第14回 クレーム対応（1） クレームの発生 / クレーム対応の基本 / クレーム対応の手順				
第15回 クレーム対応（2） 謝罪の言葉 / 誠意 / クールダウン				
テキスト	開講時に指示する			
参考文献	ハーヴィ・マッケイ著、栗原百代訳『ビジネス人間学』（日本経済新聞社） 伊藤守著「コーチングマネジメント」（ディスカヴァー）			
単位認定の方法	出席状況・レポート・テスト			
内容的に関連する科目	「インターンシップ」			

科目名	生活と物権	分類	法学部専門科目・必修	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Life and Property	2	後期	4
ふりがな 担当者名	豊 由 正 明	テーマ	身近な権利としての物権	
<b>【授業概要】</b> 本講義は、講義形式で行われるのを基本とします。講義では、物権・担保物権について基本的な理解を深め、問題となっているところにも触れることにより、理解を深めることを目的とします。なお、講義中質問をしますので、予習は不可欠です。				
授業計画				
第1回	ガイダンス	第17回	共有、合有、総有、用益物権総論	
第2回	物権の意義、性質、客体	第18回	地上権、地役権	
第3回	物権法定主義、物権の種類および分類、法源	第19回	永小作権、入会権	
第4回	物権行為	第20回	担保物権総論	
第5回	物権変動、意思主義、形式主義	第21回	留置権、先取特権	
第6回	対抗要件、二重譲渡	第22回	質権	
第7回	背信的悪意者	第23回	抵当権の意義、性質	
第8回	登記に関する諸問題	第24回	抵当権の効力	
第9回	中間省略登記	第25回	抵当権を巡る諸問題	
第10回	動産の物権変動と対抗要件	第26回	抵当権の処分	
第11回	即時取得	第27回	法定地上権	
第12回	占有権	第28回	特殊抵当	
第13回	所有権	第29回	非典型担保総論	
第14回	区分所有権	第30回	譲渡担保、所有権留保	
第15回	復習	第31回	復習	
第16回	中間試験	第32回	期末試験	
テキスト	小泉健『物権法概説』（酒井書店）改訂予定			
参考文献	講義のはじめに指示。			
単位認定の方法	出席および定期試験による。2/3以上の出席は必須。			
内容的に関連する科目	民法の入門、請求権の性質、債権各論、親族相続法			

科目名	刑法の基礎	分類	法学部専門科目・必修	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記		1	後期	4
ふりがな 担当者名	あきやま 栄一 秋山 栄一	テーマ	犯罪論の基本的理解	
<b>【授業概要】</b>				
<p>犯罪と刑罰に関する法律である刑法は、私達の日常生活に密接にかかわっているがゆえに刑法は身近な存在でなければならない。市民に理解された行為規範として機能すべきである刑法は、その理論性、思想性、両者を前提とした学説の対立の激しさ等の故に、敬遠されがちである。そこで、本講義では、基本用語の理解から犯罪の理論的把握、刑罰の根拠や刑法の機能などの基本的問題について理解しやすくするために、判例の動向や事例を活用して段階的に議論を進めていく。また、講義の進行方式としては、毎回レジュメを配布し、その流れに従っていく予定であることから、必ずしも、指定のテキストの順序に従うものとは限らないことがあることをお断りしておく。</p>				
授業計画				
第1回 講義ガイダンス 刑法を理解する上での基本概念の理解	第17回 責任論の本質と構造			
第2回 罪刑法定主義	第18回 責任能力			
第3回 刑法思想・刑法学説の歴史	第19回 違法性の意識			
第4回 刑罰 - 応報刑主義 犯罪 - 行為責任の原則	第20回 信頼の原則			
第5回 犯罪論の構成(序論)	第21回 錯誤			
第6回 行為論	第22回 期待可能性をめぐる諸問題			
第7回 法人の犯罪能力・両罰規定	第23回 未遂論			
第8回 構成要件論	第24回 共犯論(序論)			
第9回 真正不作為犯と不真正不作為犯	第25回 共同正犯その他			
第10回 因果関係論	第26回 共犯と錯誤、共犯と身分、必要的共犯			
第11回 構成要件の故意及び過失	第27回 罪数論			
第12回 違法論(序論)	第28回 刑罰論の本質			
第13回 形式的違法性と実質的違法性	第29回 刑の種類、刑の量定、執行			
第14回 違法性阻却事由	第30回 後半の総括			
第15回 前半の総括	第31回 全体の総括			
第16回 試験	第32回 試験			
テキスト	大塚仁 刑法入門〔第4版〕有斐閣 最新の六法 ノート必携			
参考文献	西田典之・山口厚編「刑法判例百選 ・第6版」有斐閣			
単位認定の方法	2/3以上の出席を前提として、出席30%、試験70%の割合で単位を認定する。			
内容的に関連する科目	刑事手続きの流れ、刑事政策等			

科目名	請求権の性質	分類	法学部専門・必修	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記		2	後期	4
ふりがな 担当者名	めん かんそぶ 孟 観燮	テーマ		
<p><b>【授業概要】</b>  請求権の性質では、民法第三編「債権」第一章の総則を勉強します。  債権は、「特定の人が他の特定の人に対して、一定の行為を請求できる」と定義されます。  特定の人が特定の人に対して、どのような請求ができるのか、一緒に考えてみましょう。</p>				
授業計画				
第1回 債権の意義		第17回 債権の第三者に対する効力の概観		
第2回 債権の意義		第18回 債権者代位権		
第3回 債権の目的		第19回 債権者代位権		
第4回 特定物債権		第20回 詐害行為取消権		
第5回 種類債権		第21回 詐害行為取消権		
第6回 金銭債権		第22回 第三者による債権侵害		
第7回 利息債権		第23回 弁済の提供		
第8回 金銭債権		第24回 受領遅滞		
第9回 強制履行		第25回 第三者による弁済		
第10回 自然債務		第26回 弁済による代位		
第11回 損害賠償		第27回 債権の準占有者への弁済		
第12回 損害賠償		第28回 弁済の充当		
第13回 損害賠償		第29回 債権譲渡		
第14回 損害賠償		第30回 債権譲渡・債務引受		
第15回 前期分のまとめ		第31回 後期分のまとめ		
第16回 テスト		第32回 テスト		
テキスト	角 紀代恵著「債権総論」(新世社)			
参考文献				
単位認定の方法	試験と出席状況等で評価			
内容的に関連する科目				

科目名	犯罪の原因と対策	分類	法学部専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Criminology	3	後期	4
ふりがな 担当者名	ちゅうじょう しんいちろう 中 條 晋一郎	テーマ	刑事政策の理念と実践を学ぶ	
【授業概要】				
<p>刑罰法令を定めるだけでは、犯罪対策として十分ではない。逮捕、刑事裁判手続き、そして刑の執行という一連の刑事司法手続きが、法律や規則に基づき適切に行われなければ、犯罪をなくすことはできない。そして、そのプロセスの根底には、再犯を防ぎ、犯罪者の社会復帰を支援するという社会復帰理念がある。この講義では、刑事政策の理念と実践を、歴史や犯罪現象の分析などを交えながら解説する。</p>				
授業計画				
第1回	この講義についてのガイダンス / 刑事政策とは何か	第17回	刑事司法・少年司法機関	
第2回	刑事政策の歴史(1) ～近代刑事政策の誕生～	第18回	刑罰(1) ～生命刑～	
第3回	刑事政策の歴史(2) ～現代の刑事政策理論の動向～	第19回	刑罰(2) ～自由刑～	
第4回	犯罪の原因論(1)	第20回	刑罰(3) ～財産刑～ / 保安処分	
第5回	犯罪の原因論(2)	第21回	犯罪者処遇の意義	
第6回	わが国の犯罪情勢～犯罪統計から～	第22回	監獄法改正と犯罪者処遇の新展開	
第7回	各種犯罪の動向(1) ～交通犯罪～	第23回	施設内処遇	
第8回	各種犯罪の動向(2) ～薬物犯罪～	第24回	社会内処遇	
第9回	各種犯罪の動向(3) ～組織犯罪～	第25回	少年保護手続き(1)	
第10回	各種犯罪の動向(4) ～高齢者犯罪～	第26回	少年保護手続き(2)	
第11回	各種犯罪の動向(5) ～外国人犯罪～	第27回	少年保護手続き(3)	
第12回	各種犯罪の動向(6) ～企業犯罪～	第28回	犯罪被害者の支援と法的地位(1)	
第13回	各種犯罪の動向(7) ～性犯罪～	第29回	犯罪被害者の支援と法的地位(2)	
第14回	各種犯罪の動向(8) ～家庭内・近親者間犯罪～	第30回	刑事司法の国際化と犯罪対策	
第15回	少年非行の現状	第31回	期末試験	
第16回	刑事制裁総説 ～刑罰・処分～	第32回		
テキスト	守山正・安部哲夫(編著)『ビギナーズ刑事政策』(成文堂・2008年)			
参考文献	矢島正見他(編著)『改訂版よくわかる犯罪社会学入門』(学陽書房・2009年)等。			
単位認定の方法	期末試験に出席状況を加味して評価する。			
内容的に関連する科目	刑法の基礎、いろいろな犯罪、刑事訴訟法、法の基本となる考え			

科目名	法の基本となる考え	分類	法学部専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Legal Philosophy	3	後期	4
ふりがな 担当者名	ちゅうじょう しんいちろう 中 條 晋一郎	テーマ	法とは何か？なぜ法が必要か？	
【授業概要】 法（ないしはルール）は、人間社会になぜ存在し、なぜ必要なのか。逆に、今成立している法は、全ての人々にとって本当に必要なものといえるだろうか？この講義では、法や裁判の制度の基本的な仕組みと主な機能、法の実現すべき目的や価値、法を運用する法律家の組織や活動など様々な角度から、法とは何かという法の概念そのものを追求していく。				
授業計画				
第1回 この講義についてのガイダンス/ 法とは何か？...法への視座	第17回 現代正義論の展開(1) ~総説~			
第2回 法システムの構造と機能(1) ~法源~	第18回 現代正義論の展開(2) ~リバタリアニズムをめぐる議論~			
第3回 法システムの構造と機能(2) ~法のもつ機能とは何か~	第19回 「悪法」をめぐる理論と実践			
第4回 法文化の歴史の変遷(1) ~西欧~	第20回 裁判制度と裁判手続(1)			
第5回 法文化の歴史の変遷(2) ~日本~	第21回 裁判制度と裁判手続(2)			
第6回 法と強制(1) ~総説~	第22回 裁判の機能(1)			
第7回 法と強制(2) ~犯罪と刑罰~	第23回 裁判の機能(2)			
第8回 法と強制(3) ~少年の健全育成と少年非行対策~	第24回 裁判過程と法の適用(1)			
第9回 法と道徳(1) ~総説~	第25回 裁判過程と法の適用(2)			
第10回 法と道徳(2) ~法的パターンリズムとは何か~	第26回 法の解釈			
第11回 権利と人権(1) ~法的権利義務関係~	第27回 法的思考とは何か			
第12回 権利と人権(2) ~新しい権利・人権~	第28回 法の運用と法律家(1) ~法曹~			
第13回 権利と人権(3) ~代理母出産をどうとらえるか~	第29回 法の運用と法律家(2) ~裁判員制度の意義と展望~			
第14回 権利と人権(4) ~現代社会と家族~	第30回 法的価値判断の正当化			
第15回 権利と人権(4) ~現代社会と家族~	第31回 期末試験			
第16回 法と正義	第32回			
テキスト	特になし。毎回レジュメを配布する。			
参考文献	田中成明『法理学講義』（有斐閣・1994年）			
単位認定の方法	期末試験に出席状況を加味して評価する。			
内容的に関連する科目	法学の基礎 他、法律科目全てに関連する。			

科目名	社会政策	分類	法学部専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Social Policy	3	後期	4
ふりがな 担当者名	木村 澄	テーマ	社会政策の制度の発展と適用	
【授業概要】 働く者にとっては、賃金や労働時間などの労働条件はもとより、病気、けが、障害、妊娠、出産、失業、死亡、さらには高齢社会における年金や介護などの事項は、きわめて重大な問題である。社会政策は、これらの問題に対して国家の行なう対応策せあって、社会・経済の変化に対応しながら生成・発展をとげてきた。本講義では、主要国における社会政策の制度と法の発展を概観しながら、日本における社会保障制度の具体的な適用をみていく。				
授業計画				
第1回 社会政策の理論(1)	第17回 医療保険制度(1)			
第2回 社会政策の理論(2)	第18回 医療保険制度(2)			
第3回 社会保障の概念と対象	第19回 医療保険制度(3)			
第4回 社会保障の生成のプロセス	第20回 年金保険制度(1)			
第5回 社会保障の機能	第21回 年金保険制度(2)			
第6回 イギリスの社会保障制度の発展(1)	第22回 年金保険制度(3)			
第7回 イギリスの社会保障制度の発展(2)	第23回 労働者災害補償保険制度(1)			
第8回 イギリスの社会保障制度の発展(3)	第24回 労働者災害補償保険制度(2)			
第9回 イギリスの社会保障制度の発展(4)	第25回 労働者災害補償保険制度(3)			
第10回 日本の社会保障制度の発展(1)	第26回 雇用保険制度(1)			
第11回 日本の社会保障制度の発展(2)	第27回 雇用保険制度(2)			
第12回 日本の社会保障制度の発展(3)	第28回 雇用保険制度(3)			
第13回 日本の社会保障制度の発展(4)	第29回 介護保険制度(1)			
第14回 生活保護(1)	第30回 介護保険制度(2)			
第15回 生活保護(2)	第31回 介護保険制度(3)			
第16回 中間試験	第32回 期末試験			
テキスト	講義の際に資料を配布します。			
参考文献				
単位認定の方法	受講態度、出席状況、中間試験、期末試験			
内容的に関連する科目	仕事と法律			

科目名	リーダーシップ論	分類	法学部専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Theory of Leadership	2	後期	2
ふりがな 担当者名	伊藤 護朗	テーマ	「信頼関係の構築」について考える	
<p><b>【授業概要】</b>            リーダーシップとは、変革を成し遂げる力量を指す。近年リーダーシップの重要性が高まっている背景の一つに、ビジネスの世界で競争と変化が激しさを増していることがあげられる。同じことを繰り返したり、あるいはそれを少しばかり改善したくらいでは、もはや成功を手にすることはできない。            本講では、「リーダーシップの科学」や「人心掌握のベース作り」などを取り上げ、変革を余儀なくされている新しい環境を生き抜く方法を模索する。</p>				
授業計画				
第1回 リーダーシップとは				
第2回 職場におけるリーダーシップ				
第3回 人心掌握のベース作り				
第4回 公正な世界観の育成				
第5回 リーダーシップの科学(1) - 「PM理論」「P機能」「M機能」など				
第6回 リーダーシップの科学(2) - 「因子分析」「配慮」「体制づくり」など				
第7回 組織集団の状況とリーダーシップ				
第8回 動機付け理論(欲求の喚起)				
第9回 リーダーになるための条件				
第10回 人間関係管理論(1) - 「人間(じんかん)距離」を中心に				
第11回 人間関係管理論(2) - 「青い鳥症候群」「燃えつき症候群」など				
第12回 人間関係管理論(3) - 信頼関係を中心に				
第13回 説得力を高めるには - 「ハロー(後光)効果」など				
第14回 説得者の魅力効用 - 「理念と方針」「人脈」「振る舞い」など				
第15回 説得効果を高める手順 - 「ロールプレイング」など				
テキスト	開講時に指示する。			
参考文献	ジョン・P・コッター著、黒田由貴子訳「リーダーシップ論」(ダイヤモンド社)			
単位認定の方法	出席状況・テスト			
内容的に関連する科目	「インターシップ」「心理学」			